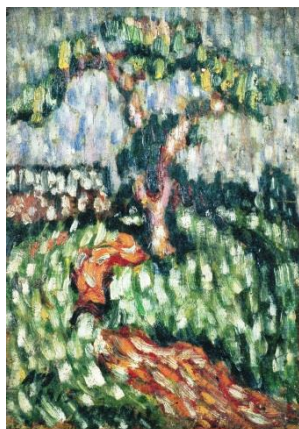


柳瀬 正夢 YANASE Masamu

柳瀬正夢(1900—1945／松山市出身)は、福岡県門司市(現・北九州市)で少年期を過ごし、15歳で第2回再興院展に入選、10代の頃から門司で個展を開催、北九州の美術運動にも加わるなど、若い時期から目覚ましく活動しました。のち活動の拠点を東京に移して、読売新聞社に入社し、ジャーナリズムの仕事を手がけたほか、大正期新興美術運動やプロレタリア美術運動に加わり、漫画やグラフィックデザインなどにも活躍の場を広げました。1932(昭和7)年、治安維持法違反容疑で逮捕されますが、出所した後は再び油絵を描き、全国各地を訪れその風景や人物をモチーフにした作品を次々に制作するも、1945(昭和20)年5月に空襲に遭い死去しました。大正期から昭和戦前・戦中期にかけて、油彩画、グラフィックデザイン、諷刺画、漫画、写真、絵本等多方面にわたり展開した柳瀬の先駆的な活動は、今日の近代日本美術史において高く評価されています。

当館では、本県出身の重要作家の一人と位置づけ、油彩画約40点のほか、『無産者新聞』『読売新聞』に掲載された風刺漫画の原画や素描・水彩画等約110点を収蔵しています。



《木と降る光》

1915(大正4)年

油彩／板

33.1 × 23.2cm



《崖と草》

1921(大正10)年頃

油彩／板

24.0 × 33.0cm

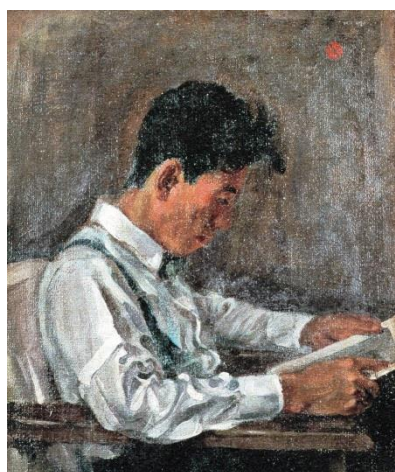


《底の復報》

1922(大正11)年

油彩／板

23.7 × 23.7cm



《Kの像》

1934(昭和9)年

油彩／板

45.6 × 38.2cm

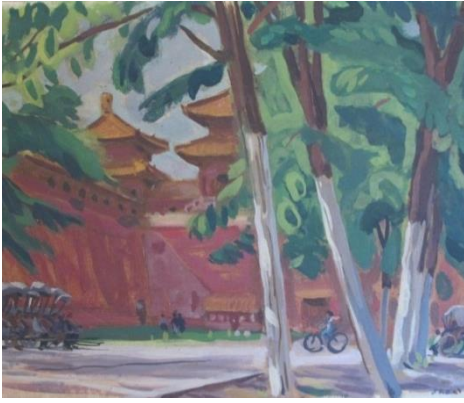


《仮面》

1936(昭和11)年

油彩／画布

33.5 × 33.4 cm



《若葉》

1939(昭和11)年

油彩／画布

43.5×51.5cm



《笑ひの失業対策》(原画)

『読売新聞』1930(昭和5)年9月8日掲載

インク／紙

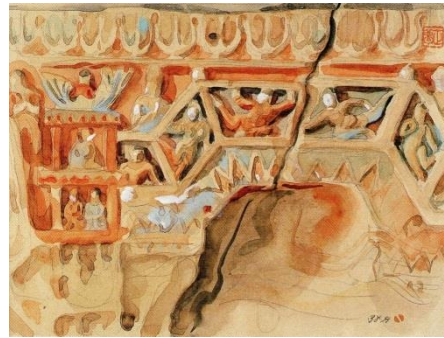
22.3×31.0cm



『戦旗』3巻1号(原画)

インク・水彩／紙

22.2×15.2cm



《大同の石仏 第一窟 西面壁の一部》

1938(昭和13)年

水彩／紙

25.6×33.2cm